

August 16, 2019

【前日の為替概況】ドル円、反発 盆休み期間中で高い薄く荒い値動き

15日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発したものの、日本がお盆期間中で高いが薄いこともあり、一日を通じて荒い値動きとなった。終値は106.12円と前営業日NY終値(105.91円)と比べて21銭程度のドル高水準。欧州市場序盤には目先のストップロス注文を断続的に巻き込んで一時106.78円まで急伸したものの、すぐに失速。中国政府が米国の対中制裁関税「第4弾」に対する報復措置を取る方針を示すと、米中貿易摩擦への懸念が高まり売りが優勢となった。時間外の米10年債利回りが低下したことも嫌気されて、19時30分過ぎには一時105.70円と日通し安値を付けた。

ただNY時間に入り、7月米小売売上高や8月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数など、この日発表の米経済指標が相次いで予想より良好な内容だったことが分かる。円売り・ドル買いが優勢に。21時30分過ぎに106.34円付近まで値を上げた。NY時間午後には米10年債利回りが1.4732%前後と2016年8月以来の低水準を付けたことをきっかけにドル売りが強まると105.80円付近まで下げたものの、利回りが1.53%台を回復するとドル円も106円台前半まで持ち直した。市場では「米金利動向を睨みながらの荒い値動きとなり、為替市場は総じて神経質だった」との声が聞かれた。

ユーロドルは3日続落。終値は1.1107ドルと前営業日NY終値(1.1139ドル)と比べて0.0032ドル程度のユーロ安水準だった。米長期金利の低下を手掛かりに20時30分前に一時1.1158ドルと日通し高値を付けたものの、その後失速した。良好な米経済指標が相次いだことでユーロ売り・ドル買いが出たほか、欧州中央銀行(ECB)政策委員会メンバーのレーン・フィンランド中銀総裁が「9月にインパクトのある大規模刺激策を実施する必要がある」と述べると、緩和策拡大の思惑からユーロ売りが広がった。前日の安値1.1131ドルを下抜けて一時1.1092ドルと2日以来の安値を付けた。

ユーロ円は続落。終値は117.87円と前日NY終値(117.98円)と比べて11銭程度のユーロ安水準となった。ドル円の急伸につれて欧州序盤に一時118.98円まで大きく値を上げたものの、そのあとは上値の重さが目立った。フィンランド中銀総裁の発言をきっかけに全般ユーロ売りが強まった影響で一時117.63円と日通し安値を更新した。

【本日の東京為替見通し】乱高下後のドル円は動きにくい、新たなリスク要因の動向には警戒

本日の東京市場のドル円は、106円を中心にもみ合いとなるか。昨日は様々な言い訳(誤発注、日本の格下げの噂、機械の暴走など)でドル円は急伸した。その後の戻りも早く、市場は大きく傷んでしまった。13日の上昇スピードが速く値幅も大きかったため、市場はニュースなどを確かめることもせず、動いた方向に追随せざる終えない状況になっている。このように市場が傷んだ後は、ドル円はよほど大きなニュースが出ない限りは、上がったなら売り、下がったなら買いをこなし、大きくポジションを傾けるのは難しいだろう。

本日は上記の理由でドル円が大きく動くのは難しいだろうが、昨日も国際情勢が不安定な動きになり、リスク要因が増えている。1つめはカシミールの停戦ラインで銃撃戦が起きたことだ。国連安保理もこの問題で本日協議を行うが、中国がパキスタンを支援する発言をしていることで、印パ情勢も米中間の争いが絡む可能性もありそうだ。2つめは香港情勢だ。昨日、香港のデモ参加者が「16日香港ドルの現金を銀行から全て引き出そう」と呼びかけているという噂が流れ、香港ドルが一時急伸した。もし、噂どおりのことが起きた場合は、香港の金融市場にも影響を与えることになるだろう。また、今週末に更なる大きなデモを計画しているとの報道もある。それに対して香港に近い中国・深センの競技場に中国の武装警察が集結している。トランプ米大統領も香港について、ここ最近ではツイッターで口先介入を行ってきているため、週末を含め香港情勢にも目を配りたい。米中通商協議についてもトランプ米大統領のツイートが止まないことで、きまぐれな大統領のツイートで為替市場も上下する可能性が高い。日米通商協議は来週21-22日にワシントンで閣僚級協議が行われる見通しになっている。為替条項を巡る合意などが水面下で行われているだろうが、来週までアナウンスは出てこないだろう。

ドル円以外では、欧州通貨の動きには警戒したい。本日は欧州から、ユーロ圏の貿易収支以外に主だった経済指標発表の予定はないが、ポンドドルの1.2000ドル、ユーロドルの1.1000ドルなど節目に近い水準近辺で停滞している。両通貨ともエネルギーが溜まっていると考えられ、ふとした弾みで大きく動く可能性もある。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

○16:00 ◇ 6月トルコ鉱工業生産

○17:30 ◎ 4-6月期香港国内総生産（GDP、予想：前期比▲0.3%）

○18:00 ◇ 6月ユーロ圏貿易収支（季調済、予想：185億ユーロの黒字）
ユーロ圏貿易収支（季調前）

○21:30 ◇ 6月対カナダ証券投資

○21:30 ◎ 7月米住宅着工件数（予想：125.7万件、前月比0.3%）

◎ 建設許可件数（予想：127.0万件、前月比3.1%）

○23:00 ◎ 8月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：97.2）

19日

○08:50 ◎ 7月貿易統計（通関ベース）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

15 日 07:45 トランプ米大統領

「中国はまずは香港を人道的に扱え」

「中国は取引成立を望んでいる」

「中国は多くの職を失い、(職は)非課税国に移っている」

「関税延期は米国より中国に恩恵がある」

15 日 08:06 デベル RBA(豪準備銀行)副総裁

「消費見通しに短期的な下方向のリスク」

「鉄鉱石の価格は一段と下落すると予想」

「中国の刺激策は豪経済を促進している」

15 日 18:11 中国財務省

「米国は新たな 10%の関税によって米中首脳による合意を破った」

15 日 22:47 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁

「9 月に大規模緩和を実施する必要がある」

16 日 03:11 メキシコ中銀声明

「政策金利引き下げは全員一致ではなく、1 人の委員が据え置きを支持」

「インフレ見通しは 3%超えだが、おおむね安定的」

「不透明性の高まりにより、成長のリスクバランスは下方向に傾く」

16 日 04:10 ブラード米セントルイス連銀総裁

「マーケットやデータに注意を払っている」

「世界経済は減速のさなかにある」

「市場の下振れは一部行き過ぎの可能性」

16 日 04:24 FRB(米連邦準備理事会)

「日本時間 23 日 23 時にジャクソンホール会議でパウエル議長が講演」

16 日 04:59 アレハンドロ・ディアス・デレオン・メキシコ中銀総裁

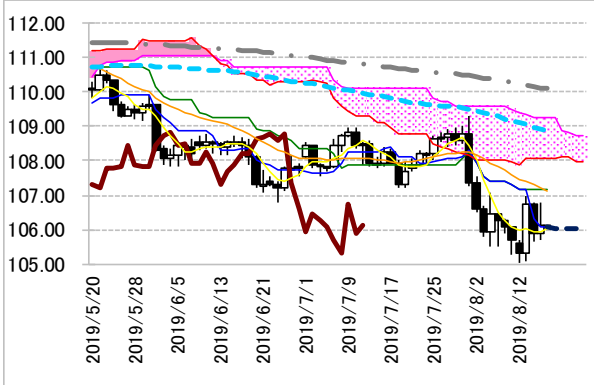
「弱い経済成長がインフレを中銀目標 3%に収束させる」

「メキシコ経済は国際的な通商対立に影響されやすい」

「経済減速のリスクは高まっている」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝転換線の下げ止まりとともに再上昇うかがう>

上影小陽線引け。一時 106.78 円へ上振れる場面もあった。だが、低下過程の一目均衡表・転換線を上回った同水準では相応の売り圧力にさらされ、一時は 105.70 円まで下落幅を広げている。

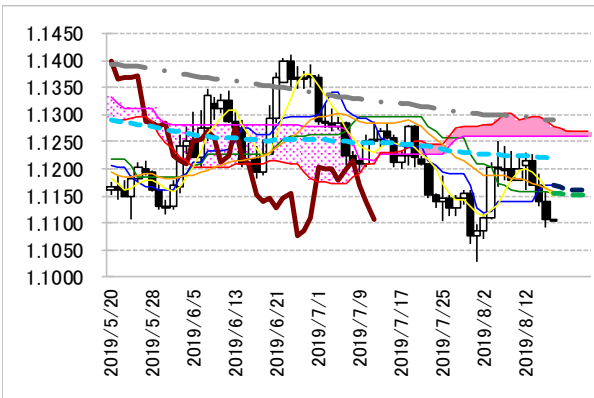
ただ、その後も戻りを試し、転換線 106.07 円をわずかながら上回る 106.12 円で NY を引けた。同線は週明け 106.02 円まで多少水準を下げたところで底打ちする公算。低下の流れをいったん収束させる同線とともに、底固めから再び上値をトライする展開が想定できる。

レジスタンス 1 106.78(8/15 高値)

前日終値 106.12

サポート 1 105.66(8/14 安値)

サポート 2 105.05(8/12 安値)



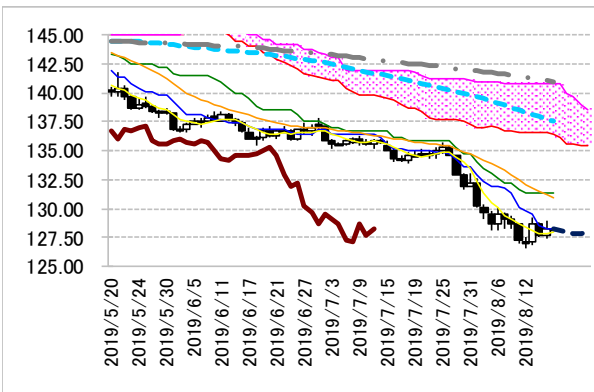
<ユーロドル＝転換線が頭打ち、基準線とともに抵抗に>

陰線引け。戻りが 1.1158 ドルと一目均衡表・基準線 1.1157 ドル付近で抑えられ一時 1.1092 ドルと、2 日以来の 1.11 ドル割れとなった。基準線が抵抗となったほか、1.1171 ドルへ上昇した一目・転換線も頭打ちとなる見込み。転換線は来週、おおむね横ばいが想定される基準線へ、徐々に近づくように低下を進める公算が大きい。上値の重さを示唆しており、さえない相場推移が予想される。

レジスタンス 1 1.1171(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 1.1107

サポート 1 1.1053(ピボット・サポート 2)



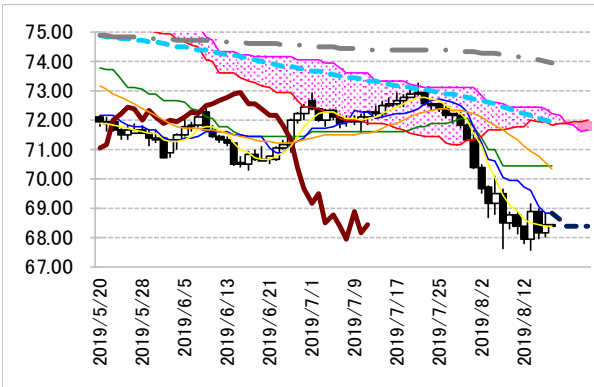
<ポンド円＝転換線とともに下値探り、安値更新へ>

上影陽線引け。一目均衡表・転換線を上回る水準から押し返され、戻りの鈍さを示唆する上ひげをつけた足型を形成した。低下が続く見込みの転換線とともに下値を探ることになるか。12 日につけた年初来安値 126.55 円の更新リスクを抱えた状態にある。

レジスタンス 1 128.99(8/15 高値)

前日終値 128.31

サポート 1 127.48(8/15 安値)



<NZドル円＝転換線の低下終了とともに反発する可能性>

上影陽線引け。目先のすう勢を示す 5 日移動平均線とともに相場が下げ止まるポイントを探る展開が続く。ここまでは低下中の一目均衡表・転換線に戻りを抑えられ、反発しきれない状態が継続している。本日、5 日線は 68.35 円前後で推移。転換線も来週 20 日には同水準近傍の 68.36 円で下げ止まる可能性がある。抵抗である転換線の低下が止まるとともに、相場が反発することは考えられる。

レジスタンス 1 68.82(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 68.43

サポート 1 67.92(8/14 安値)

